

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.138

2011/05/08

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

何故・今・そこまでする必要が?

5月21・22日で議論しよう・・・

国土地理院では「平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震による被災地の空中写真」が http://saigai.gsi.go.jp/h23taiheiyo-ok/photo/photo_dj/index.html で公開されている。この惨状を見ると、「想定外」と言われることも理解できないわけではない。1000 年に一度と言われる今回の災害だが、千年に一度ということは、1 万年では 10 回と言うことになる。山門湿原がいつから存在するかは、現在の調査では 3 万年としている。とすれば、このような現象（あえて現象と言うことにする）は、30 回以上繰り返されたことになる。私たちが今見ている景観は、こうした地殻変動の繰り返しで形成されたものであることを、知識としては知っていても、明日のこととはとらえられない。それは私たちの生涯が、たかだか 100 年ということにある。そんな自然界の営みの中で「山門水源の森」で私たちが行っている、生物多様性保全のための活動には、どんな意味があるのかしっかりと考え直す必要がある。今春実施した「南部湿原獣害防止ネット設置」にはどれほどの意味があるのかである。食害によって南部湿原のミツガシワが絶滅したとして、明日の私たちの生活には何ら支障がない。にもかかわらず

陸前高田市の3月13日撮影の状況(国土地理院)

わらず何故食害防止のネットを多くの経費と人手をかけて行ったのか。1 種の生物が『絶滅』することが、私たちの日々の生活とどのように関わるのか、次の世代にどのような影響があるのかも語り合いたいものです。科学が進歩した(?)と言われる一方で、未だに私たちは『アメーバ』さえ創造することが出来ない現実を直視し無ければなりません。もう一度『自然と私たち』の関わりを考えたいものです。

「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」

<http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/>

遅れた春の訪れ



ブナの新緑(11/04/29)



ブナの森(11/04/29)



ブナの森のブナ(11/04/24)

4月29日現在森の西側「総見山」の東斜面の沢沿いには、未だ残雪があるという最近では久々の遅い春の訪れです。しかし「花」を付ける樹木は「生り年」です。その代表はブナです。

ブナの森では、4月10日過ぎから開花が始まりました。一斉開花ではなく、株によって開花がずれています。4月29日でも未だ開花していない株もあります。しかし、開花しているものの花付きはよく大豊作になりそうです。前回ブナの豊作は、2005年でした。この時採種したものが今楽舎の前で育種しているものです。



トクワカソウ群落の開花(11/04/29)

森の中で群落として保護しているものが何種類かあります。いち早く群落保護作業を始めたのが「トクワカソウ」です。毎年刈り払い・落枝・倒木の整理・立ち入り制限ロープ設置等を行ってきました。この群落は年々分布範囲が拡大していますが、今年は開花は遅れたものの、見事な開花状態となりました。



見応えあるユキバツバキ(11/04/29)

例年4月10日過ぎが見頃となるユキバツバキは、その時期が20日ほど遅れました。現在の状況では、5月10日くらいまでは楽しめるのではないかと思います。長年増殖に取り組んでいるササユリは、ここに来て一斉に芽を出し始めました。既に草丈が30cmに迫るものもあります。またまた金網掛けの大仕事です。去年は250株に掛けましたが、今年は300株を超えることが予想されます。年々作業株数が増加してゆくの、何処まで対応出来るかは根比べですが今年の作業をやってみてどうするかを考えたいと思います。スミレサイシンの群落も順調に見えますが、ここは昨年刈り払いをしたところですから、少なくとももう1年様子を見ないと結論は出ません。



スミレサイシン(11/04/29)



次々発芽するササユリ(11/04/29)